

書式2

教 育 研 究 業 績 書		
令和 3 年 3 月 31 日		
氏 名		
研究分野	研究内容のキーワード	
数学 応用情報科学 経営情報学	情報教育 プロジェクトマネジメント PBL 業務改善	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例 1) 学習支援用の Web サイトの構築と活用 2) プロジェクトマネジメントの擬似的体験学習の導入 3) 授業でのビジネスゲームの取り入れ 4) オンライン授業の指導と支援	平成 19 年 4 月 ～現在 平成 19 年 4 月 ～平成 21 年 3 月 平成 28 年 4 月 ～現在 令和 2 年 5 月～ 現在	授業の配布資料や課題を Web サーバ上にアップし、学生が主体的に学べるように行ってい。質問なども随時受け付けるよう正在进行。 システム開発の工程である、システム設計～開発～評価を疑似的体験させて各作業をグループ学習として授業を行った。 企業の実務を知らない学生に企業経営を模擬体験させるビジネスゲーム(Web での経営シミュレーション)を実施し、知識だけを学ばせるのではなく、経営方法を体験させる授業を行っている。 Zoom、Office365 を利用し、オンラインによる授業方法を教員及び学生への指導と支援を行っている。
2. 作成した教科書、教材 1) 静岡大学情報学部・情報学研究科の疑似的ワークショップの教材開発 2) 神戸大学経済経営研究所で利用できるデータの分析手順書の開発 3) 国立高等専門学校機構の全国 51 国立高等専門学校で AL 導入における教材の開発 4) 甲子園短期大学の情報処理教育の教材の開発	平成 19 年 1 月 ～平成 21 年 3 月 平成 21 年 4 月 ～平成 26 年 12 月 平成 27 年 1 月 ～平成 28 年 3 月 平成 28 年 4 月 ～現在	ジョブシミュレーション演習の授業で利用する教科書、教材を作成し活用した。 情報システムマネジメント演習の授業で利用する教科書、教材を作成し活用した。 神戸大学経済経営研究所で利用できるデータの活用法と分析方法が分かる教材を作成し活用した。 国立高等専門学校機構の全国 51 国立高等専門学校で利用共通にできる、キャリア教育の教材及び情報システム系の教材を作成した。 国立高等専門学校機構の全国 51 国立高等専門学校の教員のための AL 指導のための教材を作成し活用した。 甲子園短期大学の情報処理 II の授業で利用する Excel、PowerPoint、プログラム教育に関する

		する教材を作成し活用している。
3. 教育上の能力に関する大学等の評価 1) 甲子園短期大学での学生による授業評価アンケート評価	平成 28 年 4 月 ～現在	学生による授業評価アンケートにて、担当科目「情報処理Ⅱ」「インターンシップ」「課題解決演習」「情報処理論」満点 5.0 に対してすべての項目において、評価 4.0 以上の評価を得ている。
4. 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 研修講師	平成 23 年 5 月 平成 27 年 1 月 平成 27 年 11 月 平成 27 年 12 月 平成 27 年 12 月 平成 27 年 12 月 平成 28 年 1 月 平成 28 年 12 月 平成 29 年 3 月 平成 29 年 3 月 平成 29 年 3 月 平成 30 年 1 月	静岡大学理学研究科の大学院生を対象としたキャリア教育の講師を務めた。 国立高等専門学校機構明石工業高等専門学校主催アクティブラーニング（AL）研修（富山高等専門学校）講師を務めた。 国立高等専門学校機構主催 AL トレーナー研修（中国地区）講師を務めた。 国立高等専門学校機構主催 AL トレーナー研修（北海道・東北地区）講師を務めた。 国立高等専門学校機構主催著作権講習研修の講師を務めた。 国立高等専門学校機構主催 AL トレーナー研修（関東地区）講師を務めた。 国立高等専門学校機構主催 AL トレーナー研修（九州地区）講師を務めた。 兵庫県立神戸北高等学校 2 年生を対象とした模擬授業（コンビニ経営）の講師を務めた。 兵庫県立夢前高等学校 1 年生を対象とした模擬授業（ビジネスマナー）の講師を務めた。 兵庫県立津名高等学校 1、2 年生を対象とした模擬授業（コンビニ経営）の講師を務めた。 兵庫県立西脇工業高等学校 1 年生を対象とした模擬授業（ビジネスマナー）の講師を務めた。 好文学園女子高等学校 1 年生を対象としたキャリアデザイン授業の講師を務めた。
5. その他 特記事項なし		
職務上の実績に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許 第二種情報処理技術者	平成 10 年 12 月 8 日	情報処理国家資格（第 23072391 号）
2. 特許等 特記事項なし		

3. 実務の経験を有する者についての特記事項				
1) グローリー株式会社での製品開発	平成9年4月～平成10年3月 平成10年4月～平成11年12月 平成12年1月～平成13年9月 平成13年9月～平成15年3月 平成13年9月～平成15年3月 平成15年3月～平成18年12月	ICカード(デンソー製)とRFIDタグを利用した食堂向けオートレジシステムの製品開発をプログラマーとして従事した。 郵政省向け現金精算システムの製品開発をプロジェクトリーダーとして従事した。 印鑑照合と署名照合を利用した金融向け手形システムの製品開発をプロジェクトマネージャとして従事した。 "電子マネー(Edy、FeliCa)"を使用したオートレジシステムの製品開発をプロジェクトマネージャとして従事した。 バイオメトリクス認証(顔認証)のエンジン部分の研究開発をチームリーダーとして従事した。 バイオメトリクス認証(顔認証)のを利用した入退管理システム製品開発をプロジェクトマネージャとして従事した。		
2) 神戸大学ミクロデータアーカイブセンターの構築	平成21年4月～平成22年3月	神戸大学にて神戸大学と独立行政法人統計センターとのデータ室運営のシステム構築を行った。		
3) 経済データ検索システムの開発	平成21年4月～平成26年12月	神戸大学経済経営研究所が独自に保持している経済データ(7000万件データ)のデータベースシステムの設計および開発を行った。		
4. その他				
1) 中小企業の支援活動	平成24年4月～現在	一般社団法人システムコラボ・マネジメント(国立大学法人静岡大学18番目の認定法人)を静岡大学情報学部田中宏和教授と立ち上げを行い、中小企業へPBLの導入による業務のシステム化を行うことで、作業の効率化やデータの電子化による業務改善や経営体質の改善を行っている。		
2) 競争的資金の獲得	平成29年4月～平成30年3月	研究委託として「組織診断アンケート向けWebシステムの開発」の30万円の資金の獲得した。		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				

(学術論文)				
1. キーボード 打鍵癖を利用 し た e-Learning 用 個人認証アル ゴリズムの提 案 (査読付)	共著	平成 23 年 8 月	日本 e-Learning 学会 論 文 誌 Vol.11 (pp.34-40)	e-Learning の進歩に伴い、「いつでもどこでも」学習ができる一方、なりすましを抑制する認証システムはまだ作られていない。学習サイトのなりすまし防止のため学習者によるキーボードの打鍵と入力の癖から本人認証を行うための新たな認証アルゴリズムの開発を行った。(共著者 杉山 光, 宮崎 佳典, 保田 洋) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2. アクティブ ラーニングの 成果に関する 意識調査報告 (査読付)	共著	平成 28 年 2 月	明石工業高等専門学 校 紀要 第 58 号 (pp.20-25)	アクティブラーニングを導入するに際し、あらかじめその成果について想起することは、AL 導入の目的、達成目標の設定、評価方法の策定等に必要であり有効であると考えられる。国立高専の教職員を対象とした AL 研修会において、AL を実施することによる学生、教員及び学校の成果に関する意識調査アンケートを行い、その結果を取りまとめ分析を行った。(共著者 田坂 誠一, 石田百合子, 保田洋) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3. Web シラバ スデータベー スシステムの 開発 (査読付)	共著	平成 29 年 3 月	甲子園短期大学紀要 35 号(pp.25-30)	シラバスには授業の設計書としての役割、学生への質保証としての役割、授業における課題を明確にして学生の学習を促進するなどのさまざまな役割がある。一般的にシラバスを電子化することにより、その作成プロセスが効率化され、さらにシラバスの検索、情報の関連付けが容易になる。また、検索が容易になることにより学生は効果的に資格に関わる科目選択が可能にもなる Web シラバスデータベースシステムの開発を行った。 (共著者 保田洋, 吉井隆) 共同研究につき本人担当部分

4.授業アンケートの効果的評価方法の提案（査読付）	共著	平成 30 年 3 月	甲子園短期大学紀要 36 号(pp.11-16)	<p>抽出不可能</p> <p>学生による授業アンケートは、ファカルティ・ディベロメントに関わる手法の代表格とみなされており、現在はどこの大学でも実施されている。しながら、導入されてからかなりの年月が経っている大学が多いにも関わらず、個々の授業に対して、具体的な分析方法や活用方法が確立されていない。学生が授業（情報処理、体育）を通して、何を重要としているのかをアンケートから分析できる評価方法を開発した。</p> <p>（共著者 <u>保田洋</u>,吉田景一）</p> <p>共同研究につき本人担当部分 抽出不可能</p>
5.保育士・幼稚園教諭養成における情報教育の授業設計の試み	共著	平成 30 年 3 月	甲子園短期大学紀要 36 号(pp.55-58)	<p>情報化社会となった現在、保育・幼児教育の現場では様々な情報教育機器が導入され、利用されている。こうした現状から、保育士・幼稚園教諭養成において情報教育は重要である。そこで、現場で働く保育士および幼稚園教諭に情報教育機器の利用についてアンケートを実施した。その結果から動画の作成方法や応用的な文章作成などの技術不足の結果が得られた為、実践的な動画作成や応用的な分書作成を取り入れた授業設計を行った。</p> <p>（共著者 <u>保田洋</u>,吉井隆,千原智美）</p> <p>共同研究につき本人担当部分 抽出不可能</p>
6.パソコンを活用した保育教材の検討（査読付）	共著	平成 30 年 3 月	甲子園短期大学紀要 36 号(pp.27-31)	<p>ICT 社会を迎える幼稚園ではパソコン等を用いた保育実技が可能になり、新たな保育のための教材作成が求められている。今回幼児の興味関心を高め幼児の成長との関連を考慮しながらパソコンを活用して効果的な教材を作成できることを目標に、数あるソフトウェアの中から frimo3 を選択し、実際</p>

				に簡単な教材を作成しながらその有効性について検討した。アニメーション機能が豊富でかつ時系列的に操作が可能で、また、アクションスクリプトを使って画面コントロールも可能であり、これから保育教材に有効な教材として検討を行った。 (共著者 吉井隆, <u>保田洋</u> ,千原智美) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
7.中小企業の円滑なプロジェクトマネジメントに向けた失敗要因の分析とカテゴリー化（査読付）	単著	平成 31 年 3 月	兵庫県立大学大学院 (修士論文)	中小企業への支援活動を行ってきたなかで、ほとんどの企業がプロジェクトを上手く回せないという、問題を抱えている状況が見受けられた。そこで、失敗したプロジェクト内容と要因に関する報告を収集し、プロジェクト毎に QCD への影響の重み付けを行った。さらに、失敗につながるキーワードを報告から抽出し、失敗要因の分析とカテゴリー化を実施した。
8.中小企業プロジェクトの円滑なマネジメントに向けた失敗要因の分析 (査読付)	共著	令和 2 年 5 月	情報知識学会誌 2020 Vol. 30, No. 3巻 (pp.299-311)	プロジェクトマネジメントに備える機会が少ない中小企業で、知識や経験が乏しい人材が体系化された方法でプロジェクトを進めるのは困難である。プロジェクトマネジメントの知識や経験が乏しい状況下でプロジェクトの失敗を防ぐには、支援のための新たなメソッドやツールが望まれる。中小企業に対して、失敗したプロジェクトの事例について内容等の収集を実施し、失敗要因の分析とカテゴリー化を行った。その結果を基に中小企業のプロジェクトができる限り失敗を回避できる対応策について検討した。 (共著者 <u>保田洋</u> ,川向肇,西村治彦) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能

(その他) 学会発表 1. キーボード 打鍵癖を利用 し た e-Learning 用 個人認証アル ゴリズムの提 案	共著	平成 22 年 11 月	日本 e-Learning 学会 2010 年度秋季学術講 演会 「法政大学市ヶ谷キ ャンパス」	キーボード打鍵の入力履歴を 利用した e-Learning 用個人認 証アルゴリズムの提案・シス テム構築を目的とするパイロッ ト実験を行い、有用性の検証な らびにより高精度を得るため の指針の策定の報告。 (共著者 杉山光, 宮崎佳典, <u>保田洋</u>)
2. 高専の数学 教育・明石高専 の数学教育	共著	平成 27 年 3 月	第 167 回ファジィ科 学シンポジウム 「明石工業高等専門 学校」	高専が設立されて、50 年が経過 し、その間に高専に対する社会 の認識もある程度定着し、また 色々な意味で社会に貢献して きたことは万人の認める事実 である。しかし高専における教 育はこれでよいのか、理想的な ものなのかと問われれば、色々 な問題を内包しその解決策を 模索しながら歩んでいるのが 現実である。ここではその中で 「数学」という教科にスポット を当て、高専におけるそのある べき姿と、問題点の報告。 (共著者 岡田大輔, <u>保田洋</u>)
3. 教育改革	単著	平成 27 年 8 月	平成 27 年度全国高専 フォーラム 「東北大 学」	国立高等専門学校におけるモ デルコアカリキュラムに対す る分野横断的能力の評価指標 の開発と実践、また、国立高等 専門学校内で共通で利用でき る教材・到達度コンテンツの開 発に関しての報告。
4. アクティ ブ・ラーニング 推進担当者養 成のための研 修プログラム の開発および 改善のための 効果検証の試 み（査読付）	共著	平成 28 年 12 月	平成 28 年度日本教育 工学会研究会 「仁愛女子短期大学」	国立高等専門学校の教員研修 でのアクティブ・ラーニング推 進担当者養成のための研修プ ログラムの開発および改善の ための効果検証の試み関して の報告。 (共著者 石田百合子, 根本淳子, <u>保田洋</u> , 他)
5. 模擬体験か ら気づきを起 こすプロジェ クトマネジメ ントゲーム	単著	平成 29 年 12 月	2017 年 経営情報学 会東海支部総会・研究 報告会 「中京大学 名古屋キ ャンパス」	失敗したプロジェクトに対し て企業や団体より事例を聞き 取り、事例の収集をもとに失敗 要因について分析を行った。分 析結果から得られた情報を活

6.中小企業のプロジェクトにおける失敗要因の分析と分類	共著	平成 30 年 8 月	プロジェクトマネジメント学会 2018 年度秋季研究発表大会「同志社大学 今出川キャンパス」	用し、プロジェクトマネジメントゲームへの組み込み方法を報告。	中小企業への支援活動を行ってきたなかで、ほとんどの企業がプロジェクトを上手く回せないという、問題を抱えている状況が見受けられた。そこで、失敗したプロジェクト内容と要因に関する報告を収集し、プロジェクト毎に QCD への影響の重み付けを行った。さらに、失敗につながるキーワードを報告から抽出し、失敗要因の分析と分類の報告。 (共著者 保田洋,西村治彦)
7.中小企業プロジェクトの失敗要因に基づくリスク分析	共著	令和元年 8 月	プロジェクトマネジメント学会 2019 年度秋季研究発表大会「北海道立道民活動センター(かでる 2・7)」	中小企業に対して、失敗したプロジェクトの事例について内容等の収集を実施し、失敗要因の分析とカテゴリー化を行ってきた結果を基に、リスクマネジメントで広く用いられているリスクアセスメントに基づいてリスク分析を報告。	(共著者 保田洋,川向肇,西村治彦)
8.中小企業プロジェクトの失敗回避に向けたリスク分析 (査読付)	共著	令和 2 年 5 月	情報知識学会第 28 回(2020 年度)年次大会 情 報 知 識 学 会 誌 2020 Vol. 30, No. 2 (pp.196-199)	これまでの研究から得られた失敗要因をリスク発生要因とし、リスクマネジメントで広く用いられているリスクアセスメントに基づいてリスク分析を実施し、中小企業プロジェクトの失敗回避に向けた対応策について報告。	(共著者 保田洋,川向肇,西村治彦)
9.Risk Analysis Based on Factors of Failure in Small and Medium-sized Company Projects (査読付)	共著	令和 2 年 9 月	2020 9th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI) (pp.816-817)	これまでの研究から得られた失敗要因を 7 つのカテゴリーに分類し、分類したカテゴリーをリスク発生要因と定義し、リスク分析を実施した。リスク分析の結果を踏まえて、中小企業プロジェクトの失敗回避に向けた対応策について報告。	(共著者 保田洋,川向肇,西村治彦)

ビジネスゲームの開催 1.ビジネスゲーム実施	共著	平成 23 年 9 月	スケジューリング学会主催 2011 年学生コンペ 「大阪工業大学」	スケジューリング学会主催の学生コンペで企業の実務を知らない学生に企業経営を模擬体験させるビジネスゲーム (Web での経営シミュレーション) を実施し解説を行った。 (共著者 田中宏和, <u>保田洋</u>)
---------------------------	----	-------------	--------------------------------------	---